

那谷校下のまいぶんマニュアル

☆☆那谷校下ってこんなところ！☆☆

地形／那谷校下のおもな地形は、日本海側の平地をのぞむ小高い丘陵です。この丘陵は古墳時代後期から平安時代にかけて、**製陶**（やきものづくり）や**製鉄**（鉄づくり）が盛んだった大工業地帯です。さらに、平安時代の終わりから室町時代にかけて**加賀焼**とよばれた陶器が焼かれました。

ぜひ授業で紹介してほしいポイント！



地形の説明



那谷校下の遺跡

年表に登場する遺跡／**加賀窯**（那谷校下ほか栗津・矢田野校下）

おもな時代は平安時代～室町時代。

教科書の小単元は「貴族のくらし」～「今に伝わる室町文化」。

ポイント①＝武士が登場し、**源平の戦い**がおこった頃、**加賀焼**の生産がはじまります。

加賀焼（市指定文化財）

ポイント②＝愛知県の常滑焼の技術者が招かれ、普段の生活で使う**壺・甕・鉢**がつくられ、石川県内を中心に流通しました。遺骨を入れる**蔵骨器**にもつかわれています。



年表未登場の重要な遺跡／**滝ヶ原碧玉原産地遺跡**（滝ヶ原町）

おもな時代は弥生時代～古墳時代

ポイント①＝那谷町・菩提町・滝ヶ原町の山地は古くから質の良い石材がとれる場所でした。

ポイント②＝**碧玉**とは、弥生時代の**管玉**や古墳時代に大和の大王におさめられた**腕輪**などの材料となる緑色の石です。

ポイント③＝最近の調査で**弥生土器**の破片が採集されたため、古くから**滝ヶ原町の碧玉**がつかわれていたことが確かめられました。

ポイント④＝この辺りではやじりなどの石器の材料になる**流紋岩**や、宝石として珍重される**メノウ**や**水晶**などもとれます。

ポイント⑤＝江戸時代にはじまった**凝灰岩**の「**滝ヶ原石**」の切り出しは今でも行われています。



碧玉が地表に出ている様子



弥生時代の管玉
（アクセサリーとして使用）



古墳時代の腕輪
（宝飾品として使用）

※詳しくは小松市発行の資料集「探検！こまつの石文化」もご覧ください。